

国際協力事業団
モンゴル国
インフラ省 (MOI)
ウランバートル第4火力発電所 (TES4)
プロジェクト実行ユニット (PIU)

ウランバートル第4火力発電所 改修計画支援開発調査

最終報告書

2002年9月

電源開発株式会社

鉦 調 資

J R

02-132

序 文

日本国政府は、モンゴル国政府の要請に基づき、同国のウランバートル第4火力発電所改修計画支援開発調査を行うことを決定し、国際協力事業団がこの調査を実施しました。

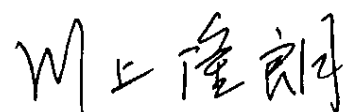
当事業団は、2001年6月から2002年7月までの間、5回にわたり電源開発株式会社の加藤泰弘氏を団長とし、同社の団員から構成される調査団を現地に派遣しました。

調査団は、モンゴル国政府関係者との協議を行うとともに、現地調査を実施し、帰国後の国内作業を経て、ここに本報告書完成の運びとなりました。

この報告書が本計画の推進に寄与するとともに、両国における友好親善の一層の発展に役立つことを願うものです。

終わりに、調査にご協力とご支援をいただいた関係各位に対し、心から感謝申し上げます。

2002年9月



国際協力事業団
総裁 川上隆朗

国際協力事業団
総裁 川上隆朗 殿

伝達状

今般、モンゴル国におけるウランバートル第4火力発電所改修計画支援開発調査が終了しましたので、ここに最終報告書を提出致します。

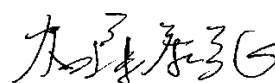
本調査は、国際協力銀行(JBIC)有償資金協力事業として計画されているウランバートル第4火力発電所改修計画第2フェーズに係る実施設計及び入札図書等作成並びに当該発電所の将来の維持管理補修計画を作成すること、また、調査を通じてカウンターパートへの技術移転を行うことを目的としていました。

なお、改修計画第2フェーズ入札図書等はモンゴル側とJBICにおいて合意されている事業内容、借款額及び工程遵守等を配慮し、貴事業団よりご指示されていた2001年9月末にはモンゴル側へ正式提出しております。よって、本最終報告書(メインレポート)は、当該発電所の維持管理補修計画に関し、2001年10月までに収集した情報・データ等に基づき、設備維持補修計画及び発電所運営管理整備計画(組織、設備運用管理、環境保全、人材育成、財務管理)を検討及び策定した内容をまとめたものです。

本計画に提言した内容を確実に実施することで、当該発電所の財政基盤と設備保守管理が強化され、さらには今後予測される電力及び熱需要の伸びに対して、良質の電力と熱エネルギーの長期安定供給に寄与出来るものと確信しております。

本報告書の提出にあたり、貴事業団を始め、外務省、経済産業省、国際協力銀行等の関係者には多大のご理解並びにご協力を賜り厚く御礼申し上げます。また、モンゴル国における現地調査期間中は、モンゴル国インフラ省や同国政府関係機関、在モンゴル日本大使館及びJICAモンゴル事務所より貴重な助言とご協力を賜り心から感謝の意を表します。

2002年9月



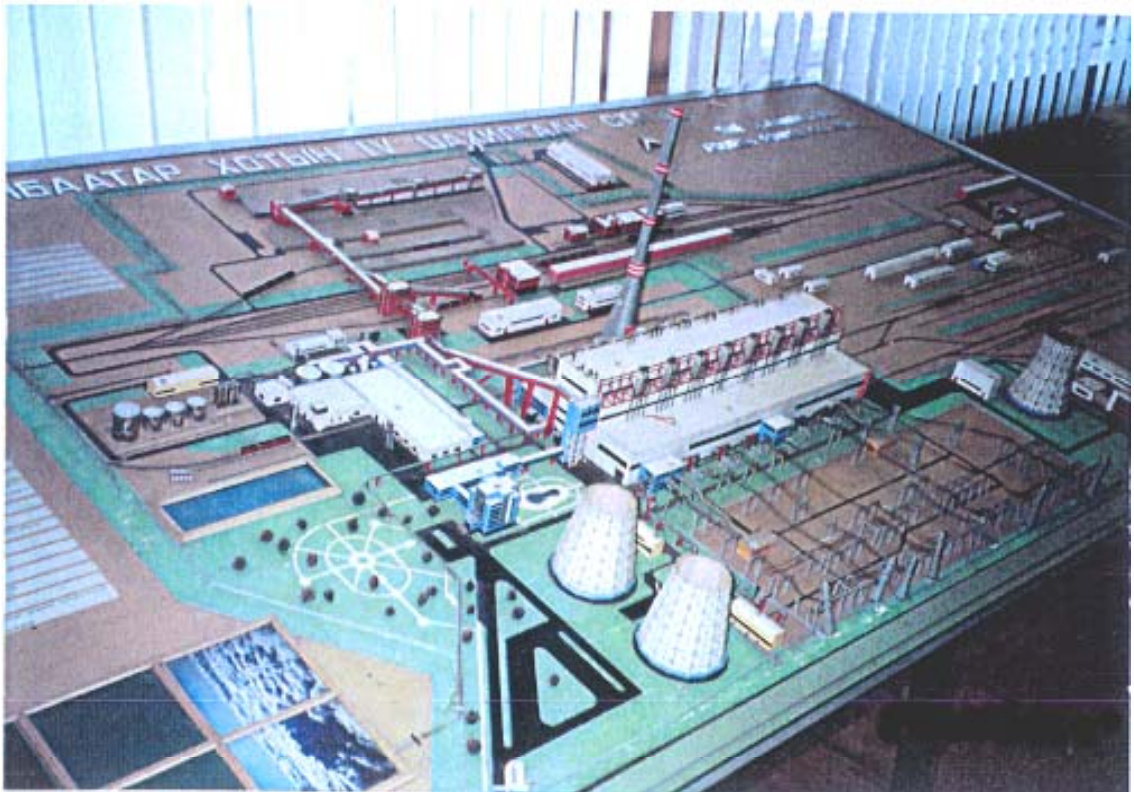
ウランバートル第4火力発電所
改修計画支援開発調査

総括 加藤泰弘

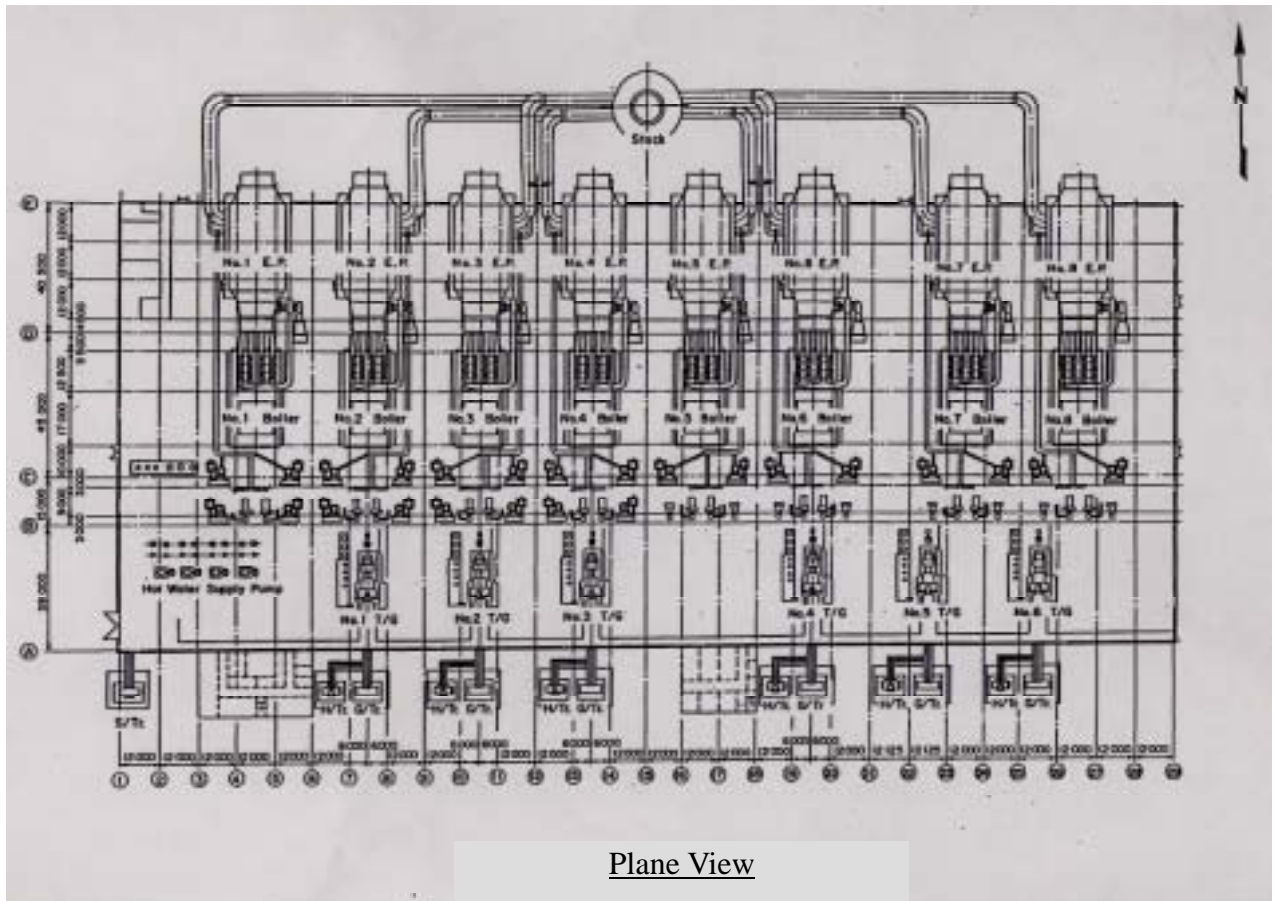




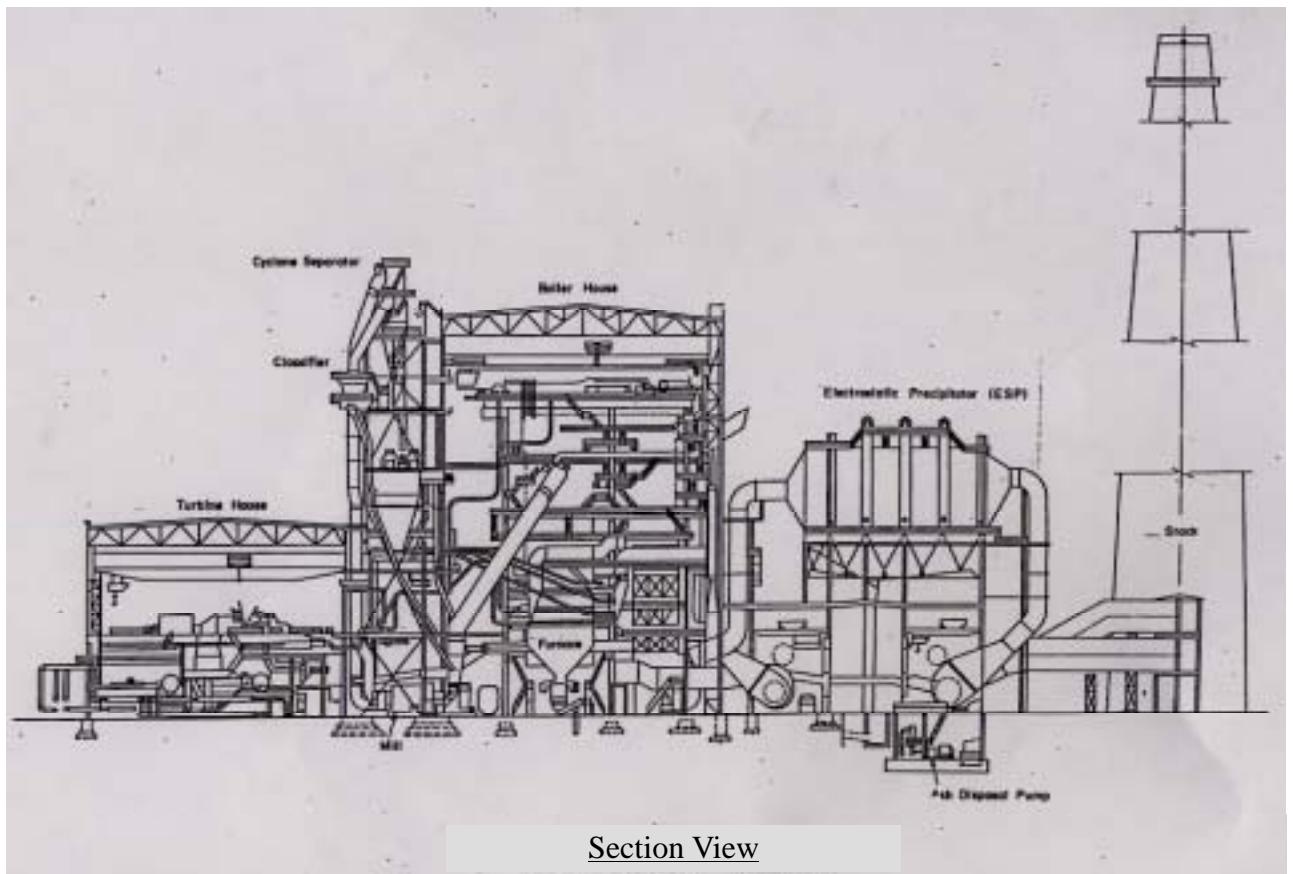
Power Plant General View



Power Plant Model



Plane View



Section View



Coal Carrier



Coal Storage Yard



Boiler Building



Electro Static Precipitator (ESP)



Transformer



Switch Yard



Boiler Control Panel (Rehabilitated)



Boiler Control Panel (Existing)



Mill (Rehabilitated)



Generator & Exciter (Existing)



No.3 Ash Pond (Existing)



No.4 Ash Pond (Under Construction)